ら旅行客を

関係者、ポイント学ぶ

インバウンド推進セミナー

「庄内に東南アジアからの観光客誘致を」と語る永田代表（右）と佐藤社長

ためのポイントな、庄内の観光業らが学んだ。ンドは「入って向きの」といったこれを観光旅行業からの観光客誘致して使う。今回のセミナーは庄内観光コンベンション協会（会長・榎本政規鶴岡市長）が主催し、同協会員で庄内一円の自治体の観光担当者や、旅館・ホテル関係者など約40人が参加した。

マレーシア在住のマックエイト・ジャパンの永田聡子代表が講師となり、「アセアン諸国に対する効果的なインバウンドの取り組み方法について」のテーマで講演。永田代表は「ASEAN（東南アジア諸国連合）加盟国は近年、所得向上に伴い家族や友人同士で海外旅行に行くなど、旅行者層の幅が拡大している」と説明した。

また、「インバウンドのために何をアピールするか。海外からの旅行客は食、自然、温泉などに関心が高い。果物狩りなどレジャー性の高い体験、他地域との差別化などが必要になってくる。食文化や宗教儀礼など生活面での配慮にも気を付けなくてはならない」と語った。

このほか、今年9月にマレーシア旅行博覧会・商談会に参加した「ホテル満光園」の佐藤徹志社長が永田代表と共に演台に立ち、「マレーシアの人たちは友好的で非常にゆったりした性格との印象を受けた。商談のために必要なのは資料。DVDや料理写真を盛り込んだパンフレットを準備した」と話した。

夫の修さんと
ホームを運営
（右）。修さ
自分の趣味だ
自分の生き方
た」と全面的

須藤さん

4つの種類があり、何らかの事情で親と暮らせない子どもを養育する「養育里親」、虐待や障害など専門

する。ファミリーホームを開設した須藤さんは養育里親。養護児童は児童相談所の措置で里親に委託される。

日本ヘルスサポート学会賞受賞

がん患者への情報提供、相談など評価

慶大先端研「からだ館」

慶應義塾大先端生命科学研究所（鶴岡市、冨田勝所長）の「からだ館がん情報ステーション」はこのほど、東京都港区の慶應大三田キャンパス北館で開かれた日本ヘルスサポート学会（理事長・田中滋慶應義塾大大学院教授）の総会で、学会賞（実践部門）を受賞した。

同学会は、地域や職域の保健、健康サービス産業などの検診・保健指導分野の研究や実践活動などを対象に2006年6月に設立。学会賞（実践部門）は継続的な実践活動で顕著な成果を挙げたプログラムなどを毎年、表彰しており、今回は全国で3件が選ばれた。

からだ館は、庄内地方の住民がガン治療や術後の生活などに関する情報を得られる場として2007年11月、慶應大鶴岡タウンキャンパス（鶴岡市馬場町）の致道ライブラリー内に開設。住民への調査で関連ニーズを調べた上、がん治療・診療に関する情報を書籍やインターネットで提供し、患者らの自己決定を支援。また、がんの相談や患者サロンによる患者同士の支援、そうした支援を行う人材育成などに、地域の医療、保健、行政、企業などと連携して取り組んでいる。

受賞に当たっては、綿密な地域のニーズ調査や課題分析を経て、がん患者が自ら意思決定するために必要な情報を提供する場をつくり、相談に乗り、自己決定する取り組みが継続的に行われていることなどが評価された。

からだ館の秋山美紀プロジェクトリーダーは「これからも、地域の医療者や行政など関係機関と連携し、地域の皆さんが生き生きと活躍できる場づくりを継続したい」、慶應大先端研の冨田所長は「医学研究は最終的には人のためにあるのだから、最先端科学技術を駆使した研究所でも患者目線、市民目線を忘れないことが大切という理念で行ってきた活動。高く評価されたことはうれしい。今後は東北公益文科大との連携も模索したい」とコメント。

新委員長に田中氏選任

鶴岡市教委

鶴岡市教育委員会が11日開かれ、新委員長に前鶴岡南高校長の田中芳昭氏（60）＝同市大山一丁目＝を選任した。教育委員長としての任期は12日から1年間。前委員長の中目千之氏が任期満了で教育委員を退任したのに伴うもの。新委員長の田中氏は1976（昭和51）年に県立高校教諭となり、鶴岡南通信制教頭、酒田商業教頭、遊佐校長、県教委高校改革推進室長など歴任し、今年3月に鶴岡南校長で退職。今月12日付で市教育委員に就任した。

田中　芳昭氏

また、委員長職務代理者に歯科医の毛呂光一氏（52）＝同市泉町＝を選任した。

年に美肌効果を前面に打ち出す温泉が多いが、鶴岡市湯田川温泉は、認知症の予防に効果があるのではないかという。「温泉学」の研究者、松田忠徳札幌国際大教授が同温泉の成分を調べて可能性を指摘したが、そうであればうれしいことだ。

▼湯田川温泉の源泉に含まれる「溶存水素」が体の酸化を防ぐことになれば、認知症やがんの予防に効くのではないかという。松田教授は全国4600カ所もの温泉地を回ったが、溶存水素が含まれる温泉が見つかったのはごくわずか。湯田川温泉の泉質はまれな存在ということになる。

▼白鷺が傷を癒やしたのが湯田川温泉の始まり。その由来を聞くだけでも効能の良さが伝わってくるが、地元では開湯1300年を機会に温泉の売り出しに取り組んでいる。認知症予防と温泉の効能の関係が実証されたわけではないが、まずもって、あまり難しいことを考えず、ゆっくり湯に漬かることが身も心にも一番の健康法。これからお風呂が楽しい季節だが、入浴事故だけには注意したい。